



内子座 藝於遊

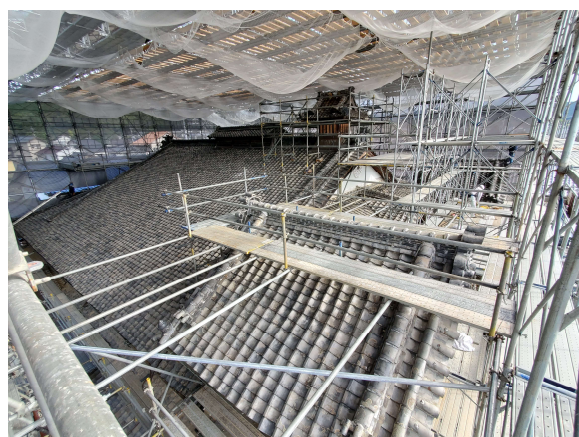


看板「内子座」の取外し

令和7年9月27日、内子座正面唐破風の妻部分に掲げられていた「内子座」の看板が取り外されました。この看板は、昭和の復原工事の際に取り付けられたもので、大正のオリジナルのものではありませんが、内子町出身の西岡嵐舟（本名：盛續）氏による墨文字と、看板裏に書かれている文字を手掛かりに推定しています。氏は教員を務めた20代の頃に「教えるためには、先ず字を上手に書くことが必要だ」と考え、出石寺穩元禅師に手ほどきを受け、以降独学で書を勉強しました。その後、紆余曲折を経て、昭和31年（1956）書家村上三島に師事し、昭和34年（1959）県展で知事賞を受賞して以降、日展入選2回の快挙を収めています（※）。内子座楽屋にて見学できますので、ぜひ間近でご覧ください。※出典『新編 内子町誌』より



看板取外しの様子
(9月27日撮影)



瓦解体に向けた準備と調査

瓦の解体に向け、着々と準備が進んでいます。足場も解体作業がしやすいように組み替えられ、太鼓櫓や東西の櫓屋根周辺にも足場が組まれました（写真左）。また、内子座の屋根は、瓦と瓦のつなぎ目が漆喰で塗り固められていて、台風や風雨に対して強い仕上げとなっています。この目地漆喰を取り除く作業も行われました。経年劣化により、これまでも屋根から漆喰が剥がれ落ちたりしていましたが、それでもしっかりと塗られた漆喰をはがすのは根気のいる作業です（写真右下）。さらには実際の形状を図って図面に落とし、寸法を記録するなどの細かな調査も行われました。



写真上とその横が調査の様子です。どれも角度の急な屋根の上での作業で、安全への配慮が欠かせません。

